

検 印	校 長		教 頭	
--------	--------	--	--------	--

平成29年度「沖縄の地理と歴史」シラバス

単位数	2	年間時数	78時間	学年	2～4	学科	商業科
-----	---	------	------	----	-----	----	-----

1. 目標

- (1) 沖縄の自然・地理・歴史・文化を理解させる。
- (2) 地理的な条件から、沖縄の歴史・文化の国際性・多様性を理解させる。
- (3) 「東アジアの中の沖縄」の視点を身につけさせる。
- (4) 国際社会のなかでのウチナーンチュの生き方を考察させる。

2. 評価の観点

	観点	内容	方法
a	関心・意欲・態度	沖縄の自然・地理・歴史・文化に関する事柄に関心をもち、考えようとしているか。	・学習活動への参加状況と意欲 ・課題等の提出とその内容
b	思考・判断・表現	沖縄の自然・地理・歴史・文化に関する事柄について、社会の変化や様々な立場・考え方をとらえたり、表現できるか。	・授業中の発言やワークシートの解答
c	資料活用の技能	沖縄の自然・地理・歴史・文化に関する諸資料の収集と選択、またそれらを活用しまとめることができるか。	・新聞記事や諸資料の読み取り ・ミニ新聞の作成
d	知識・理解	沖縄の自然・地理・歴史・文化に関する基本的な事柄を理解しているか。	・ワークシートの解答、まとめ

3. 評価の方法

定期考査 60点

平常点 40点 (出席点30点、授業態度・提出物点10点)

4. 学習計画及び評価の観点

学期	月	学習項目	学習内容	時間	評価の観点			
					a	b	c	d
前期 (39時間)	4	授業開き・オリエンテーション 沖縄の地理的特徴 沖縄県の位置と面積	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄の自然と地理的特徴、地形と気候、村落と都市と人口、沖縄の経済と産業、民俗と文化、先史時代の沖縄について、文献資料や新聞記事、各種統計、映像等を活用して学習する。 ・ 沖縄戦と平和の創造について、統一LHRの講話も関連させ学習する。 	7	○			○
	5	地形と気候、村落と都市と人口 沖縄県の地形		8	○			○
	6	経済と産業 慰霊の日に関して		8		○	○	
	7	民俗と文化		8		○	○	
	9	先史時代の沖縄 古琉球		8	○			○
後期 (39時間)	10	豆腐の日（10月2日） 沖縄そばの日（10月17日） 空手の日（10月25日） 沖縄の移民（世界のウチナーンチュ大会）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄の伝統食、文化、移民に関し制定された日を知る。 	8		○		○
	11	琉球王国の時代 島津の侵入と琉球	琉球王国時代、島津の侵入と琉球、琉球処分・沖縄県のはじまり、	8	○			○
	12	琉球処分・沖縄県のはじまり 近代沖縄	15年戦争と沖縄、米	6	○			○
	1	15年戦争と沖縄 戦後沖縄	国統治下の沖縄、祖国復帰運動と沖縄返還、	6		○	○	
	2	祖国復帰運動と沖縄返還・ 日本復帰後の沖縄	日本復帰後の沖縄について、独立国家であった時代や、中国を中心としたアジア諸国との歴史的交流についても含め学習する。	7	○	○		
	3	今後のウチナーンチュの生き方 これからの沖縄についての考察	沖縄の現状と課題、今後の沖縄について考察し、ミニ新聞にまとめる。	4		○	○	

検 印	校 長		教 頭	
--------	--------	--	--------	--

平成29年度「世界史A」シラバス

単位数	2	学年	2	使用教科書	『明解 世界史A』(帝国書院)
-----	---	----	---	-------	-----------------

1. 学習の到達目標

- (1) 近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させる。
- (2) 現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 評価の観点

	観点	内容	方法
a	関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心を高めようとしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況と意欲 ・課題等の提出とその内容
b	思考・判断・表現	現代世界の諸課題を歴史的な観点から考え、表現できるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言やワークシートの解答
c	資料活用 of 技能	世界の歴史に関する諸資料を収集したり、選択できるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事や諸資料の読み取り ・ミニ新聞の作成
d	知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの解答、まとめ

3. 評価の方法

定期考査 60点

平常点 40点(出席点30点、授業態度・提出物点10点)

4. 学習計画及び評価の観点

【前期】39時間

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
4	授業開き・オリエンテーション 世界史へのいざない 1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり 1. 地球上に現れた人類と文明 1節 東アジアの文明 1. 中国に生まれる統一国家 －中国文明の成立 2. 東アジアのもう一つの勢力 3. 東アジアの国際的な大王朝 4. 諸民族によって統治された時代	7	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の目標、授業の約束事を確認する。 ・自然環境と歴史、日本と世界の歴史のつながりをもとに世界史学習の意義に気づかせる。 ・人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産を基礎に人類が文明を築き、歴史時代へはいつていく過程を理解する。 ・東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、冊封体制などを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。 	○			○
5	2節 南アジアの文明 1. 数々の宗教が成立した南アジア 3節 東南アジアの文明 1. 外来文化を吸収した東南アジア 4節 西アジア・北アフリカの文明 1. オリエントの古代文明 2. イスラームの誕生と広がり 3. イスラームの拡大と分裂 5節 ヨーロッパの文明 1. ヨーロッパ文明の源流 2. キリスト教と東西に分かれるヨーロッパ 3. 教皇の強大な権力と十字軍遠征 4. ヨーロッパにおけるまちとくにの発達 6節 南北アメリカの文明 1. 独自の文明を築きあげた南北アメリカ	8	<ul style="list-style-type: none"> ・南アジアの風土と諸民族、カースト制、仏教、ヒンドゥー教、イスラームの影響などを通して、南アジアの文明の特質を理解する。 ・インドと中国のはざまにあるため、両文明の影響を受けながら、それぞれの地域で多様な社会・文化を築いていった東南アジアの特質を理解する。 ・西アジア・北アフリカの風土と諸民族、オリエント文明・イラン文明の伝統にふれ、基層となる西アジアの特徴を把握する。イスラームの成立と拡大・分裂などを通して、西アジア・北アフリカの文明の特質を知る。 ・ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統、キリスト教の発展、封建社会などを通して、ヨーロッパの文明の特質を理解する。 ・南北アメリカ大陸の風土と先住民にふれ、ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカ大陸において独自の文化が築かれていたことを知る。 		○		○

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
5	7節 ユーラシアの交流圏 1. ユーラシアを結ぶ陸の道・海の道		・ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域間の交流が進んでいく様子を、交易品などの事例を通して把理解する。				
6	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア 1. モンゴル帝国のあとにおこった諸大国 2. イスラーム諸王朝の繁栄 3. 明の繁栄 － 返り咲いた漢人王朝 4. 清の繁栄 － 中国全土に広がる辮髪 5. 交易で結びつく東アジア諸国	8	・アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会にふれ、この時期に安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	○			○
7	2節 大航海時代と新たな国家の形成 1. ヨーロッパで花開く個性と自由 2. 大航海時代の始まり 3. ヨーロッパの新しい国際関係 4. イギリスの革命とフランス絶対王政 5. 中央・東ヨーロッパ諸国の改革とロシアの拡大 6. アジア・アメリカに進出するヨーロッパ	8	・ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓などにふれ、16世紀頃から始まった世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	○			○
9	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命 1. イギリスから独立するアメリカ 2. ヨーロッパ近代化の出発点 フランス革命 3. ナポレオンの支配からウィーン体制へ 4. フランス革命と社会生活の変化 5. 大西洋を越えて広がる革命の波 6. 産業革命という大変革の開始 7. 資本主義の発展と社会主義運動の発生	8	・アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命、拡大する貿易活動などを通して、西ヨーロッパとアメリカに産業社会が成立し、市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。		○		○

【後 期】 39時間

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
10	2節 自由主義・ナショナリズムの進展 1. 1848年ー19世紀の転換点 2.”世界の工場”イギリス 3. 国民国家の発展と列強の成立 4. ロシアの拡大と改革 5. 南北戦争と戦後の発展 6. 科学の世紀 ー19世紀の文化と第2次産業革命	6	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会を通して、自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。 ・19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会を通して、自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。 		○		○
11	3節 アジア諸国の動揺 1. オスマン帝国の弱体化 2. 侵略に抵抗するイスラーム諸国 3. ムガル帝国の崩壊とインド大反乱 4. 東南アジアの植民地化 4節 東アジアの大変動 1. 中国と日本の開国 2. アジアにおける工業化と日清戦争 3. 東アジアをめぐる国際関係 4. 孫文が導いた辛亥革命	7	<ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊などを通して、世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容など、アジア諸国の動揺の様子を理解する。 ・アヘン戦争やアロー戦争などの西洋の衝撃により、冊封＝朝貢体制に基づく東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程を通して、ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中での日本の対応など、東アジアの大変動を理解する。 	○			○
12	2部 地球社会と日本 1章 現代世界の芽生えと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成 1. 大衆社会の出現 2. 世界の分割を進めた帝国主義 3. 世界の一体化と人口移動 2節 第一次世界大戦がもたらしたもの 1. ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 2. 総力戦となった第一次世界大戦 3. ロシア革命と民族の問題 4. ウィルソンとヴェルサイユ体制 5. 第一次世界大戦後の列強 6. アメリカの繁栄と大衆文化	6	<ul style="list-style-type: none"> ・交通革命、マスメディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育と国民統合などを通して、20世紀の特質を把握する。欧米諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合と人口移動から、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。 ・第一次世界大戦と総力戦としての様相、ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立、戦争と革命による国際秩序の変化、アメリカの大衆生活とその波及を通して、20世紀初頭の変化の様子を理解する。 	○			○

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
1	3節 "民族自決"を求めて 1. 中東・インドの民族運動 2. 東アジアの民族運動 ー三・一独立運動と 五・四運動 4節 経済危機から第二次世界大戦へ 1. 世界恐慌とローズヴェルト 2. ファシズムの台頭 ームッソリーニとヒトラー 3. 経済不況から日中戦争へ 4. ヒトラーの要求と第二次世界大戦 5. 被害の拡大と戦争の終わり	6	<ul style="list-style-type: none"> ・インド・中東および東アジアの民族運動を通して、"民族自決"を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。 ・第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考える。 2部1章2節とあわせて20世紀前半の国際政治の流れをふまえ、国際関係の移り変わりと社会の特質を理解する。		○		○
2	2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代 1. 新たな対立と協調の模索 2. 対立する二つの陣営 3. アジアの独立と経済発展への道 4. 第三勢力の形成と南北問題 5. 中東戦争とイスラーム復興 6. アメリカ・ソ連の緊張と緩和 2節 冷戦終結への道のり 1. ゆらぐアメリカと先進各国の変化 2. 経済発展に取り組むアジア諸国 3. 冷戦の終結と変わる世界構造	8	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考える。 ・1970年代以降は市場経済の世界化をはじめ、米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。 		○		○
3	3節 地球社会への歩み 1. グローバル化する社会と経済 2. 超大国アメリカと中東情勢 3. 日本を取り巻くアジアの動き 4. 地球的課題と解決への努力 4節 持続可能な社会をめざして 1. 人間の権利と自由の保障 事例1：フランスから送還されたマの人々 2. 対立から異文化との共生へ 事例2：よみがえる伝統工芸"ノコカ" 3. 環境保全の必要性 事例3：ピョートル大帝の夢と枯渇する大アラル海 4. 共に生きる世界を築くために	6	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結後の世界の政治・経済の動向について理解するとともに、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これからの国際社会における日本の役割について考える。 ・三つの事例を通して、"共に生きる世界"の構築に向けて方策を考える。 これからの世界と日本のあり方や世界の人々が共存できる、環境・経済・社会のバランスが保たれた"持続可能な社会"の実現について考える。		○		○

検 印	校 長		教 頭	
--------	--------	--	--------	--

平成29年度「地理A」シラバス

単位数	2	学年	3	使用教科書	高等学校『新地理A』（帝国書院）
-----	---	----	---	-------	------------------

1. 学習の到達目標

- (1) 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。
- (2) 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 評価の観点

	観点	内容	方法
a	関心・意欲・態度	現代世界の地理的な諸課題に対する関心を高めようとしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況と意欲 ・課題等の提出とその内容
b	思考・判断・表現	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連をふまえ、表現できるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言やワークシートの解答
c	資料活用の技能	地図や統計、画像などの諸資料を収集したり、選択できるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事や諸資料の読み取り ・ミニ新聞の作成
d	知識・理解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄を理解しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの解答、まとめ

3. 評価の方法

定期考査 60点

平常点 40点（出席点30点、授業態度・提出物点10点）

4. 学習計画及び評価の観点

【前期】39時間

月	学習項目	時間	学習内容	評価の観点			
				a	b	c	d
4	授業開き・オリエンテーション 第1部 世界の諸地域の姿と地球学的課題 1章 地球儀や地図からとらえる現代世界 1節 地球上の位置と国家 ①地上の現象と地球上の位置 ②経度の違いと時差 ③球面と平面の世界 ④国家の領域と国境 ⑤日本の領域と領土問題	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目の目標、授業の約束事を確認する。 ・ 緯度、経度の基本的なしくみ、地球の自転と公転が季節や昼夜の長さの変化に関係していること、緯度の違いが、世界各地の気候や人々の生活、地域区分に関係していることを理解する。 ・ 経度の違いと時差のしくみについて、身近な題材や国土が東西に広い諸国の事例をふまえて理解する。 ・ 球面である地表面を、平面である世界地図に表現する際に生じるひずみについて考察する。 ・ 正積図、正距方位図、正角図の特徴と利用方法を理解する。 ・ 国家の領域、日本の位置と排他的経済水域の範囲、日本が抱える領土問題について理解する。 		○		○
5	2節 グローバル化が進む世界 ①結びつきを強める現代世界 ②拡大する世界の貿易 ③世界を結ぶ交通 ④世界を一つに結ぶ通信 ⑤観光と人の移動のグローバル化 2章 人間生活を取り巻く環境 1節 人々の生活と地形 ①世界の大地形と人々の生活 ②山地・平野の地形と人々の生活 ③海岸の地形と人々の生活	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東西冷戦の終結やグローバル化が進行するなかで、国家間の結びつきが軍事的結合から経済的結合へ変化したことを理解する。 ・ 交通網の発達により世界や諸地域の結びつきが強まり、地球規模での交流が活発化していることを理解する。 ・ 情報通信技術の発達により、世界はどのように結びついているのか、生活や産業の変化をふまえて理解する。 ・ 貿易によって世界はどのように結びついているのか、国際分業や貿易の形態の変化をふまえて理解する。 ・ 観光と人の移動の変化について、地域性や国際化の進展をふまえて考察する。 ・ 内的営力と外的営力の作用によって形成された地形と、そこで活動する人々の生活について理解する。 ・ 河川がつくるさまざまな地形と河川の流れて沿って周辺地域の地形や土地利用、人々の生活が移り変わっていくことを理解する。 		○		○
					○		○

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
5	④氷河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活		<ul style="list-style-type: none"> ・海岸で見られる地形の成り立ちと種類、特徴を人々の生活との関わりをふまえて理解する。 ・氷河地形、カルスト地形、乾燥地形の成り立ちと種類、特徴について、人々の生活との関わりをふまえて理解する。 				
6	2節 人々の生活と気候 ①生活と気候のかかわり ②熱帯の気候と人々の生活 ③乾燥帯の気候と人々の生活 ④温帯の気候と人々の生活 ⑤亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活 3節 人々の生活と産業・文化 ①生活を支える世界の農業 ②生活を支える世界の工業 ③生活と文化のかかわり	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ケッペンの気候区分と分布の特徴を理解する。 ・熱帯の特徴と年中高温の熱帯地域に暮らす人々の生活について理解する。 ・乾燥帯の特徴と降水量の少ない乾燥帯に暮らす人々の生活について理解する。 ・温帯の特徴と季節の変化に富む温帯に暮らす人々の生活について理解する。 ・亜寒帯、寒帯の特徴と寒さの厳しい亜寒帯、寒帯に暮らす人々の生活について理解する。 ・農業の発達と自給的農業・商業的農業、農業の国際化と人々の生活の変化について考える。 ・さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する。 	○			○
7	3章 世界の諸地域の生活・文化 1節 中国の生活・文化 ①中国の自然環境 ②中国の歴史と社会 ③巨大な人口を支える農業と農民 ④急進する工業と資源・環境問題 ⑤都市の発展と格差の拡大	8	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の自然環境について、内陸部と沿海部、南部と北部の対比をふまえながら、その地域性と特徴について考える。 ・中国社会の特徴を、古くからの歴史と19世紀以降の変化を捉えながら理解する。 ・高度経済成長の下で、現在の中国が抱える農業や食料問題について考える。 ・中国における工業化の進展と、「世界の工場」と呼ばれるようになった背景、急速な工業化によって生じた資源・環境問題について理解する。 ・経済発展に伴って発生した都市と農村、沿岸部と内陸部における経済格差とその改善策について考える。 	○			○

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
9	2節 韓国の生活・文化 ①朝鮮半島の自然環境 ②韓国の生活・文化と歴史 ③産業の発展と生活の変化 3節 東南アジアの生活・文化 ①東南アジアの自然環境 ②東南アジアの歴史と民族 ③東南アジアの農業とその変化 ④東南アジアの工業の発展 ⑤東南アジアの経済発展と生活の変化 4節 南アジアの生活・文化 ①南アジアの自然環境 ②南アジアの歩みとヒンドゥー教 ③南アジアの産業の発展	8	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮半島の地形の特徴を、北部と南部の比較を通して理解する。 ・韓国の伝統文化の特徴と、日本と朝鮮半島の交流と歴史について理解する。 ・韓国の急速な工業化と経済成長について、世界情勢との関わりをふまえて理解する。 ・東南アジアの自然環境について、季節風（モンスーン）の特徴に着目して理解する。 ・東南アジアの多様な民族と文化の特徴を、民族の構成や分布、移民の増加などをふまえて理解する。 ・東南アジアでさかんに行われている稲作の特徴を、自然環境と農業の近代化を関連づけながら理解する。 ・モノカルチャー経済からの脱却のために各国で進められた工業化の特徴と、ASEAN 域内で強まる経済的な結びつきについて、近隣諸国との関係をふまえて理解する。 ・インドとその周辺の自然環境とヒンドゥー教、成長するインドの工業と、経済発展をリードしている ICT 産業について近年の変化と他地域との関係をふまえて理解する。 	○	○	○	○

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
11	8節 ロシアの生活・文化 ①ロシアとその周辺の自然環境 ②ロシアの歴史と社会の変化 ③ロシアの産業と社会の変化 9節 アングロアメリカの生活・文化 ①アングロアメリカの自然環境 ②移民の歴史と多文化社会 ③大規模な農業とアグリビジネス ④アングロアメリカの鉱工業と社会の変化 ⑤アングロアメリカの結びつき	6	<ul style="list-style-type: none"> 南北差と東西差に注目して、広大なロシアの自然環境の特徴を理解する。 どのような歴史を経て現在の国になったのか、政治体制や経済の変化に注目し、農業の特色や資源をめぐる動きについて理解する。 アメリカ合衆国とその周辺の自然環境の特徴を地形や気候の東西差に注目して理解する。 移民の歴史に注目し、多民族・多文化の社会が形成された過程を理解する。 農業地域の特徴とその背景、アグリビジネス企業の特徴、工業の変遷について理解する。 多文化主義をめざすカナダの歴史的経緯、NAFTA を通じてアメリカ合衆国やメキシコとの結びつきの変化を理解する。 		○		○
11	10節 ラテンアメリカの生活・文化 ①ラテンアメリカの自然環境 ②混血社会と多様な文化 ③ラテンアメリカの農業と社会の変化 ④ラテンアメリカの工業と経済発展	2	<ul style="list-style-type: none"> ラテンアメリカの自然環境が、南北と標高で異なる特徴があることに注目し、理解する。 ラテンアメリカの歴史的背景と各国の人種・民族構成の違い、先住民とさまざまな地域の文化や伝統が融合したラテンアメリカの独特な文化について理解する。 ラテンアメリカの伝統的農業や大土地所有制、国際市場向けの新しい農業への変化と、鉱産資源の採掘が中心であったラテンアメリカの産業の変化を工業化が進むブラジルを事例に考える。 		○		○
12	11節 オーストラリアの生活・文化 ①オーストラリアとその周辺の自然環境 ②オーストラリアの結びつきの変化 ③自然を生かした輸出中心の産業 4章 地球的課題と私たち 1節 複雑にからみ合う地球的課題 ①地球的課題の特性とその解決	6	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリアとその周辺の自然環境について気候に注目し、理解する。 オーストラリアの多文化社会の形成と、アジア太平洋との結びつきの強まりを貿易や経済機構を通して知る。 自然環境に適応した農業を降水量に注目して理解し、豊富な鉱産資源とエネルギー資源を輸出する鉱工業について知る。 地球的課題について、世界の国々がどのように対応しているのか考える。 		○		○

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
3	3章 身近な地域の課題と地域調査 ①調査テーマの設定 ②現地調査の実施と分析 ③調査結果のまとめと発表	5	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域のさまざまな課題を考え、調査を行うための目的やテーマをはっきりさせることが大切であることを理解する。 ・どのような調査方法が有効かを考え、仮説を立て検証してみる。 ・現地調査・分析、仮説の検証、まとめを行う。 ・調査内容のまとめ方や発表方法を考え、実践する。 		○	○	

検 印	校 長		教 頭	
--------	--------	--	--------	--

平成29年度「現代社会」シラバス

単位数	2	学年	1	使用教科書	高等学校『新現代社会』（第一学習社）
-----	---	----	---	-------	--------------------

1. 学習の到達目標

- (1) 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせる。
- (2) 現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに、人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2. 評価の観点

	観点	内容	方法
a	関心・意欲・態度	現代社会の諸問題と人間にかかわる事柄に関心を持ち、社会的事象を総合的に考えようとしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況と意欲 ・課題等の提出とその内容
b	思考・判断・表現	現代社会の諸問題と人間にかかわる事柄について、社会の変化や様々な立場・考え方をとらえたり、表現できるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言やワークシートの解答
c	資料活用の技能	現代社会の諸問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集したり、選択できるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事や諸資料の読み取り ・ミニ新聞の作成
d	知識・理解	現代社会の諸問題と人間にかかわる基本的な事柄を理解しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの解答、まとめ

3. 評価の方法

定期考査 60点

平常点 40点（出席点30点、授業態度・提出物点10点）

4. 学習計画及び評価の観点

【前期】 39時間

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
4	授業開き・オリエンテーション 第1編 私たちの生きる社会 1. 環境と私たちの生活 ①地球環境のいま(1) ②地球環境のいま(2) ③私たちの地球を守るために	7	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の目標、授業の約束事を確認する。 ・世界にはさまざまな課題が存在していることを理解する。 ・さまざまな環境問題と人間の活動との関わり、環境問題の国際的な取り組みを理解し、自然と共生するよりよい環境を次世代に引き継ぐためにどうすべきかを考える。 	○	○		
5	2. 資源・エネルギー問題と私たちの生活 ①限りある資源 ②資源問題の解決をめざして 3. 科学技術の発達と私たちの生命 ①科学技術の発達と生命 ②生命倫理をめぐる問題 4. 高度情報社会と私たちの生活 ①情報の高度化の進展 ②高度情報社会の課題	8	<ul style="list-style-type: none"> ・資源の有限性について理解し、原子力発電の問題を例に、資源・エネルギー問題について多角的に考える。 ・科学技術の発達が社会や生活をどのように変えてきたか、医療の発達により、人類が初めて直面する問題が生じていることを具体的事例をもとに考える。 ・情報化の進展が社会に及ぼす影響、課題について考える。 ・諸問題の考察を通して、「幸福」「正義」「公正」など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	○	○		
6	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方のあり方生き方 第1章 青年期と自己の形成 私たちの一日と青年期 ①青年期とは ②青年期を充実させるために ③自立に向けて ④伝統や文化とのかかわり ⑤社会とのかかわり ⑥私たちの生きがい	8	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の中で青年期はどのような意味をもつのかを考え、青年期におけるさまざまな悩みと、それを克服するためにはどのようにすればよいか考える。 ・伝統や文化と自らの行動様式や考え方との関係について、考察する。 ・職業のもつ意味、社会に参加することや生涯にわたって学習していくことの意義を考える。 	○			○
7	第2章 個人の尊重と法の支配 私たちの一生と法 ①個人と国家 ②法の支配 ③基本的人権の保障 ④世界の政治体制	8	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と政治や国家のかかわりについて関心を高め、国家はどのような考え方を背景につくられたのか、基本的人権が保障されるにいたった経緯を理解する。 ・世界のおもな政治体制について理解する。 	○	○		

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
9	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 私たちの町と政治 ①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と日本の安全保障 ③冷戦終結後の防衛問題 ④平等に生きる権利 ⑤自由に生きる権利 ⑥豊かに生きる権利 ⑦新しい人権 ⑧基本的人権と公共の福祉 ⑨国会の運営と権限 ⑩内閣と行政の民主化 ⑪裁判所と人権保障 ⑫地方自治と住民の福祉 ⑬選挙制度の現状と課題 ⑭世論の形成と政治参加	8	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較、基本原理、三権分立について理解する。 ・平和主義をめぐって、どのような動きがあったのかを理解する。 ・基本的人権について理解する。 ・議会制民主主義とは何か、国権の最高機関である国会について理解する。 ・議院内閣制のしくみ、内閣の組織と権限について理解する。 ・裁判員制度を含む公正な裁判のための制度について理解する。 ・法と道德の違いについて考え、お互いが幸福な生活を送るために必要な法について理解を深める。 	○			○

【後 期】 39時間

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
10	<p>第4章 国際政治の動向と日本の役割</p> <p>国際政治の動向と私たちができること</p> <p>①国家主権と国際法</p> <p>②国際連合の役割と課題</p> <p>③第二次世界大戦後の国際社会</p> <p>④冷戦終結後の国際社会</p> <p>⑤核兵器の廃絶と国際平和</p> <p>⑥地域紛争と人種・民族問題</p> <p>⑦国境と領土問題</p> <p>⑧日本の役割と私たちの生き方</p> <p>第5章 現代の経済社会と私たちの生活</p> <p>私たちの町と経済</p> <p>①経済と私たちの生活</p> <p>②経済体制の変容</p> <p>③現代の企業</p> <p>④市場のしくみ</p> <p>⑤国民所得と私たちの生活</p> <p>⑥景気変動と物価の動き</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> ・主権国家とは何か、国際社会における国際法の役割と限界について知る。 ・国連の成立、役割と課題について理解する。 ・第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況について理解する。 ・核兵器を廃絶するためにどのような取り組みが行われているかを知り、国際平和のためにできることを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と密接にかかわる経済の基本的なしくみを理解し、資本主義経済と社会主義経済の特徴を理解する。 ・企業の活動内容、社会的責任について理解し、株式会社の特徴についてまとめる。 ・景気変動や経済成長が生活にどのような変化を与えるか具体的事例をあげて考える。 	○	○		
11	<p>⑦財政のしくみと税金</p> <p>⑧日本の財政の課題</p> <p>⑨金融機関のはたらき</p> <p>⑩戦後日本経済のあゆみ(1)</p> <p>⑪戦後日本経済のあゆみ(2)</p> <p>⑫技術革新の進展と産業構造の変化</p> <p>⑬中小企業の現状と役割</p> <p>⑭食の安全とこれからの日本の農業</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> ・政府の経済的役割、金融機関の果たしている役割、中央銀行の金融政策について理解する。 ・第二次世界大戦後から現在までの日本の経済のあゆみ、課題を知る。 ・技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な事例をもとに考える。 ・日本の農業政策の推移を知る。 	○	○		

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
12	⑮雇用と労働問題 ⑯労働環境の整備 ⑰公害の防止から環境保全へ ⑱消費者問題と消費者主権 ⑲社会保障と福祉社会 ⑳これからの社会保障	6	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体的事例をもとに考える。 ・公害の原因とその防止について考える。 ・消費者問題について理解する。 ・日本の社会保障制度の特徴について理解する。 		○		○
1	第6章 国際経済の動向と日本の役割 国際経済の動向と私たちにできること ①国際分業と貿易 ②国際経済体制のあゆみ ③国際収支と為替相場 ④国際経済の動向 ⑤進む地域的経済統合 ⑥発展途上国の経済と南北問題 ⑦国際社会のこれから	6	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の意義、円高・円安が生じる理由、経済のグローバル化について考える。 ・国際経済機構や地域的経済統合にはどのようなものがあるかを知る。 ・南北問題の原因、発展途上国のかかえている問題について理解する。 	○	○		
2	第7章 民主社会に生きる倫理 私たちの悩みと倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③近代の西洋社会に見られる考え方 ④近代市民社会から大衆社会へ ⑤他者とともに生きる ⑥豊かな社会の実現に向けて	8	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学や宗教の役割を理解する。 ・日本の伝統意識を理解し、生活の中での仏教や儒教、西洋思想の影響について考える。 ・人間の尊厳や科学的なものの考え方、民主的社会を樹立するために必要な考え方の理解を深めるため、図版や原典資料にふれる。 ・平等な社会の実現には、偏見を取り除き、主体的に努力することが求められていることを理解する。 		○		○
3	第3編 ともに生きる社会をめざして ケーススタディ ①社会保障と消費税 ②震災から復興への道のり ③人口問題と私たちの未来	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている図版や写真・資料などを使用し、政治課題としてよく取り上げられる消費税や人口問題を通して未来を考える。 ・調べた内容をまとめて発表したり、ミニ新聞を作成する。 		○		○

検 印	校 長		教 頭	
--------	--------	--	--------	--

平成29年度「政治・経済」シラバス

単位数	2	学年	4	使用教科書	高等学校『政治・経済』（第一学習社）
-----	---	----	---	-------	--------------------

1. 学習の到達目標

- (1) 広い視野に立って、民主主義の本質や現代における政治、経済、国際関係などについて理解させる。
- (2) 上記(1)に関する諸課題について考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2. 評価の観点

	観点	内容	方法
a	関心・意欲・態度	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を持ち、よりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付けようとしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況と意欲 ・課題等の提出とその内容
b	思考・判断・表現	現代の政治、経済、国際関係にかかわる社会の変化や様々な考え方をふまえたり、表現できるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言やワークシートの解答
c	資料活用の技能	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、選択できるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事や諸資料の読み取り ・ミニ新聞の作成
d	知識・理解	現代の政治、経済、国際関係に関する事柄や人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄をを理解しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの解答、まとめ

3. 評価の方法

定期考査 60点

平常点 40点（出席点30点、授業態度・提出物点10点）

4. 学習計画及び評価の観点

【前期】39時間

月	学習項目	時間	学習内容	評価の観点			
				a	b	c	d
4	授業開き・オリエンテーション 第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 ①政治とは何だろうか？ ②民主政治の展開 ③人権保障の発達 ④議会制民主主義と政治の特質	8	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の目標、授業の約束事を確認する。 ・民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。 ・法に関する基本的な見方や考え方をもとに、法の意義について理解する。 	○			○
5	⑤日本国憲法の成立 ⑥日本国憲法の基本原則 ⑦平和主義と自衛隊 ⑧日本の安全保障 ⑨安全保障と日本の防衛	8	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権の確立と人権保障の国際的な広がりについて理解する。 ・各国の政治体制について諸資料を利用して理解する。 ・日本国憲法の成立過程と日本国憲法の三大原則について理解する。 ・昨今の日本国憲法をめぐる論点について関心を高める。 		○		○
6	⑩法の下での平等と自由権 ⑪豊かに生きる権利 ⑫新しい人権 ⑬国会の組織と機能 ⑭国会の権限と衆議院の優越 ⑮内閣の機構と機能	8	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権や新しい人権について理解を深める。 ・国会の権限、衆議院・参議院の違い等、国会に関する基本的事項について関心を高める。 ・議院内閣制のしくみ、内閣の機能と権限について理解する。 	○			○
7	⑯裁判所の機能と人権保障 ⑰地方自治制度と住民の権利 ⑱政党政治と圧力団体 ⑲日本の選挙制度とその課題 ⑳世論と現代政治の課題	7	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判員制度を元に公正な裁判の制度を考える。 ・地方自治の本旨を理解し、国と地方の関係など、地方自治のあり方について考える。 ・政党や圧力団体の行動とその意義を理解する。 ・選挙結果や投票率の動向などから主権者としての参政のあり方について考える。 ・マス・メディアの役割と問題点、世論の果たす役割、政治的無関心の広がりについて考える。 			○	○

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点				
				a	b	c	d	
9	第2章 現代の国際政治と日本 ①国際社会と国際法 ②国際連合の役割と国際協力 ③第二次世界大戦後の国際社会 ④今日の国際社会 ⑤国際政治の特質と国際紛争の諸要因 ⑥核兵器の廃絶と軍縮問題 ⑦国際平和と日本の役割	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際政治と国内政治の違いや、国際法や国際裁判の意義を理解する。 ・ 国際社会ではN P Oや多国籍企業等国家以外の機関や組織が活動していることを理解する。 ・ 国際連盟と国際連合の違いや役割、課題について理解する。 ・ 冷戦終結後の世界が冷戦時代と比べてどのように変化したのか理解する。 ・ 民族紛争を例に、文化や宗教の多様性について理解する。 ・ 世界の核兵器の保有状況などから、国際平和について考える。 		○	○		

【後 期】 39時間

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
10	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 ①資本主義経済のしくみとは ②資本主義経済の課題と社会主義経済の変容 ③経済主体と経済活動	5	<ul style="list-style-type: none"> 資本主義経済と社会主義経済の特徴を比較しながら、現代経済の特質について理解する。 家計・企業・政府が互いにどのように関わっているのか理解する。 株式会社とはどのようなものか、所有と経営の面から理解し、企業の社会的責任について関心を高める。 			○	○
11	④市場経済の機能と限界 ⑤景気変動と経済成長 ⑥インフレーションとデフレーション ⑦財政のしくみとはたらき ⑧租税と国債	8	<ul style="list-style-type: none"> 市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解する。 独占、寡占について、身近なものを取り上げて考える。 国民所得の構成や景気変動、経済成長について、諸資料を利用し、日本と諸外国の現状を比較する。 物価の変動要因と物価の変動が国民経済に及ぼす影響について考える。 財政のしくみと役割、租税の意義、その用途について関心を高める。 日本の財政の現状について、公債残高が将来に及ぼす影響を考える。 		○		○
12	⑨資金の循環と金融市場 ⑩日本銀行と金融政策 ⑪日本経済の発展 ⑫今日の日本経済 ⑬中小企業と農業	6	<ul style="list-style-type: none"> 金融のしくみと役割、日本銀行の金融政策、金融の自由化など金融に関する環境の変化を理解する。 経済成長とともに、人々の生活が豊かになる一方で、公害などの社会問題が発生したことを認識する。 大企業と中小企業の違いや日本経済において中小企業が果たしている役割について理解する。 日本の農業が直面している課題について理解する。 	○		○	

月	学 習 項 目	時間	学 習 内 容	評価の観点			
				a	b	c	d
1	⑭消費者問題 ⑮高度情報社会 ⑯労働関係の改善 ⑰社会保障制度の充実 ⑱公害防止と環境保全 ⑲地球環境問題	6	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題の現状や消費者運動について、新聞記事などの諸資料を利用して考える。 ・情報化が政治・経済・国民生活に及ぼす影響や課題について理解する。 ・労働基本権と労働三法の基本的内容、雇用情勢の変化について理解する。 ・日本の社会保障制度の問題点と課題について考える。 ・深刻化している地球的規模の環境問題に各国はどのような対策を講じるべきか考える。 	○	○		
2	第2章 国民経済と国際経済 ①国際経済のしくみと現状 ②為替相場のしくみ ③国際協調と国際経済機関の役割 ④地域的経済統合の動き ⑤経済摩擦問題とグローバル化 ⑥国際経済の諸問題と日本の役割	8	<ul style="list-style-type: none"> ・国際収支の基本的な構成を理解する。 ・円高・円安が、生活にどのように影響するかについて考える。 ・地域的経済統合やF T A、E P Aについて諸資料を利用しながら考える。 ・先進国と発展途上国の経済格差や新興国の台頭について把握しながら、日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考える。 	○		○	
3	第3編 現代社会の諸課題 第1章 現代日本の政治や経済の諸課題 [選択] ①少子高齢社会と社会保障 ②地域社会の変貌と住民生活 ③雇用と労働をめぐる問題 ④中小企業問題 ⑤農業と食料問題 第2章 国際社会の政治や経済の諸課題 [選択] ①地球環境と資源・エネルギー問題 ②国際経済格差の是正 ③人種・民族問題と地域紛争 ④国際社会における日本の立場と役割	6	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題について、政治と経済との関連に留意しながら、さまざまな角度(視点)から考え、解決のあり方を考える。 ・発表、レポート、小論文などの言語活動によって自分の意見を表現する。 		○	○	